

キャラバン・メイトや 初期集中支援チーム員と ともにすすめる支援体制づくり

長岡市地域包括支援センターなかのしま・よいた
認知症地域支援推進員 河鱈 和美
with

長岡市長寿はつらつ課高齢者基幹包括支援センター
品田 菜穂子

長岡市ってご存知ですか？



長岡市の地形図

海岸丘陵地域

16kmの海岸線
丘陵は森林、平地は農地や
市街地、集落が広がる

信濃川沿い平野地域

信濃川を中心に市街地、集
落、優良農地が広がる

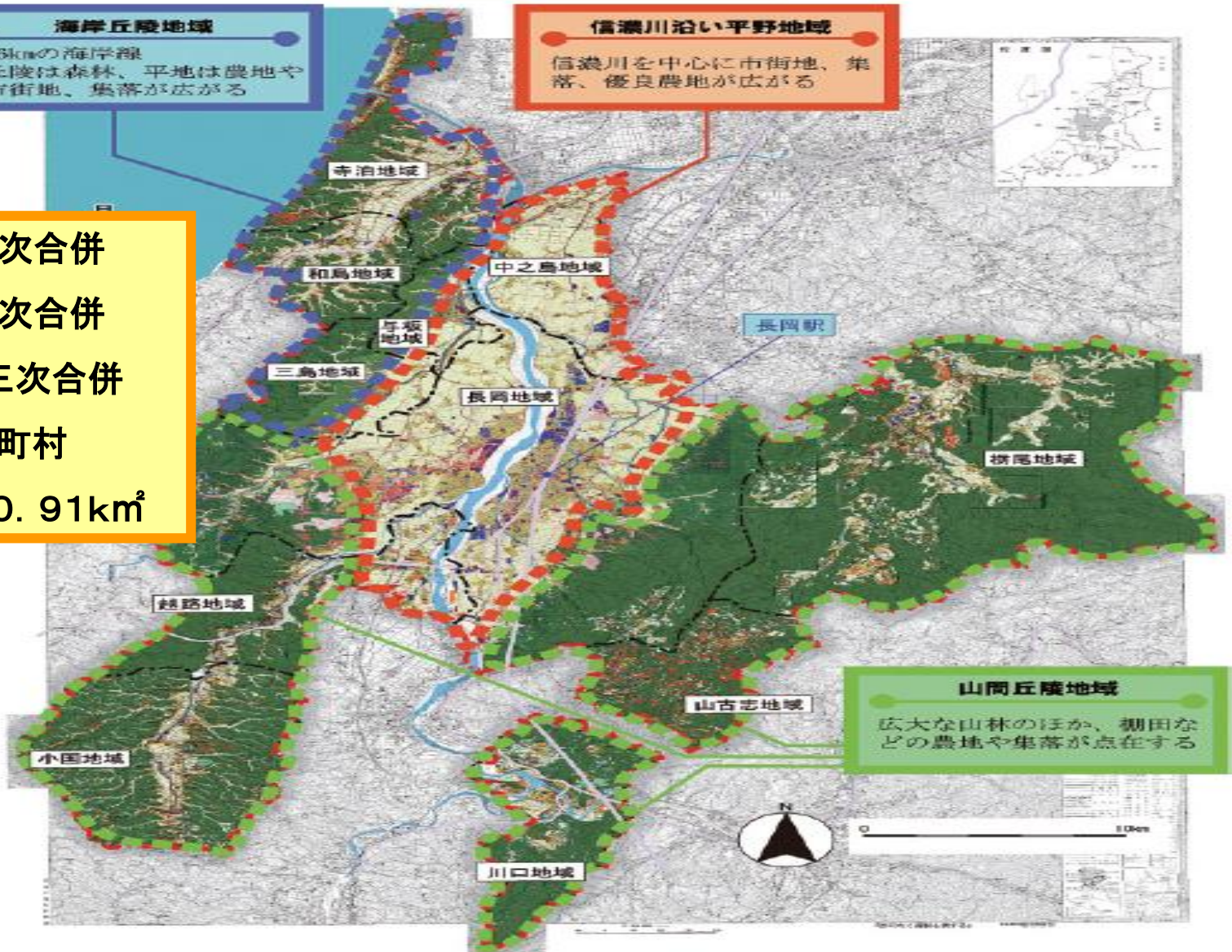
H17.4.1 一次合併

H18.1.1 二次合併

H22.3.31 三次合併

計11市町村

面積:890.91km²



～山間地域、平野部、海岸地域の多様な地形を有している～

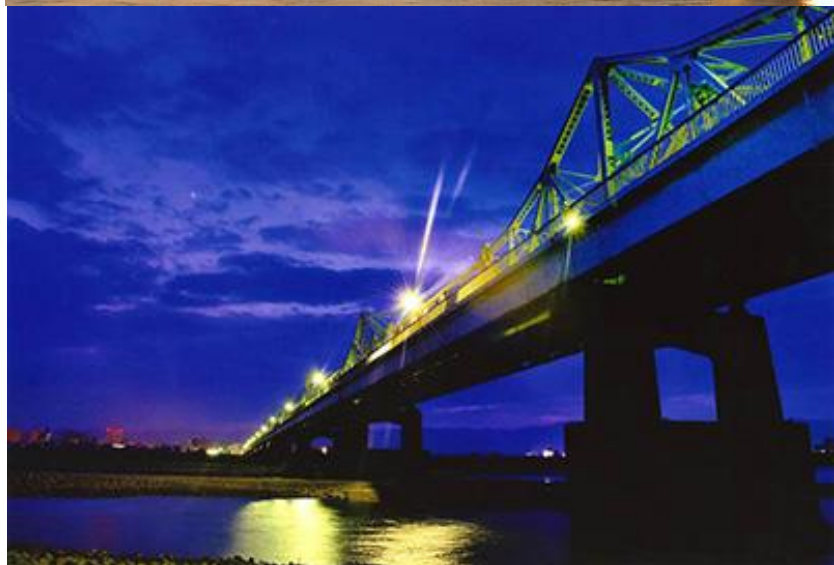




80th
Chousei Bridge Anniversary



@渡辺芳夫



長生橋が完成して82年！
80年の年から夜になると
ライトアップされています！！

（長岡市ホームページより）

長岡市の現況

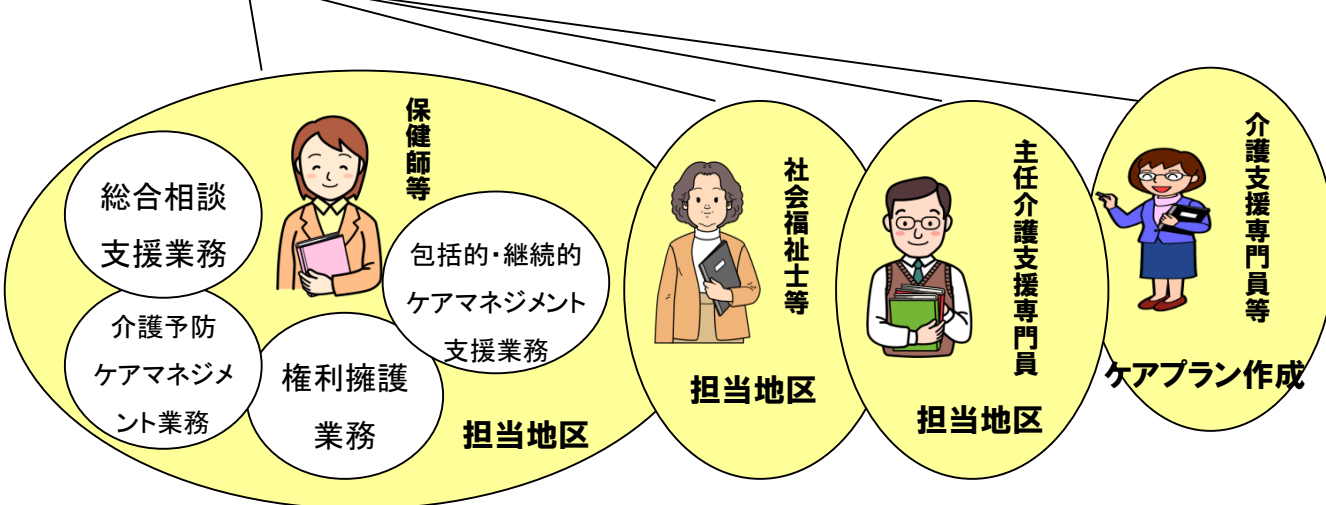
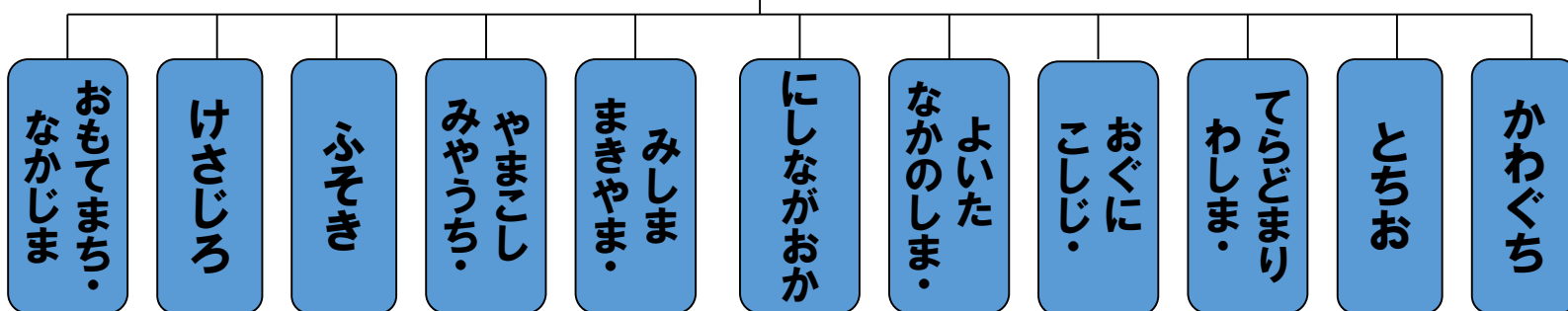
総人口:	約269,900人
高齢者人口(65歳以上):	約82,500人
高齢化率:	30.6%
要介護・要支援認定者数:	約14,800人
認知症自立度Ⅱ以上の方 (要支援・要介護認定者)	約10,200人 (平成31年4月1日現在)
日常生活圏域数:	11圏域
地域包括支援センター数:	11包括
認知症地域支援推進員数:	12人 (基幹センター専任配置1人) (各包括1名ずつ配置)

長岡市の地域包括支援センターの体制

- ・地域包括支援センターは現在、長岡市に11か所
(社会福祉法人に委託)

長寿はつらつ課 高齢者基幹包括支援センター

11か所ある地域包括支援センターの統括的な役割を担う。各センターからの情報の集約、センター間の連絡調整及び研修に関する業務を行う。



長岡市では、職種に関わらず、各自が担当地区を持っています。担当地区内の業務は地区担当が行います。課題に応じて専門職との協働(チームアプローチ)で解決を図ります。

長岡市の認知症施策

- ① 普及啓発に関すること
 - 認知症サポーター養成講座
 - 認知症地域フォーラムin長岡
- ② 家族の支援に関すること
 - 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業
 - 認知症カフェ運営事業
 - 認知症相談窓口の設置
- ③ 関係機関と連携した支援体制の構築
 - 認知症地域支援推進員の配置
 - 認知症施策推進委員会

長岡市の認知症施策

- ④ 早期対応に関すること
 - ・ 認知症初期集中支援事業
 - ・ タッチパネルによる脳の健康チェック
- ⑤ 地域や警察等と連携した行方不明者対策
 - ・ 行方不明者搜索模擬訓練
 - ・ 認知症高齢者等見守りシール配布事業

長岡市の認知症地域支援推進員の役割

～専任（基幹包括配置）～

(1)認知症の人や家族への支援を行う関係者との連携

- ・本人・家族等のつどいへの参画、各種調整
- ・オレンジカフェ(認知症カフェ)と地域包括支援センターとの連携支援
- ・オレンジカフェ通信の作成
- ・コミュニティセンター等の地域関係者が実施する、認知症支援のための地域づくりに関する活動の相談受付、会議の参加、運営協力

(2)認知症疾患医療センターとの連携

- ・センター主催の認知症疾患医療連携協議会や事例検討会、研修会等への参加・協力

(3)地域包括支援センターへの専門的助言

- ・個別事例への助言や同行訪問等の支援
- ・認知症関連の地域ケア会議(包括圏域会議)や関係機関会議等へのアドバイザーとしての参加
- ・各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員の活動への助言・支援

(4) 認知症についての普及啓発活動

- ・認知症サポーター養成講座の企画・実施
- ・認知症サポーター養成講座の活動の促進
- ・認知症キャラバン・メイトの派遣調整や各種助言、研修等活動への支援
- ・キャラバン・メイトコアチーム活動の調整・支援
- ・その他、各種団体等における認知症に関する講座等の開催、講師、運営協力

(5) 早期発見・対応の取り組み

- ・認知症初期集中支援チームと連携した、各地域包支援センターからの相談ケースの選定、同行訪問、チーム員会議参加等
- ・タッチパネル式認知症スクリーニング機器の活用 →
- ・認知症簡易チェックサイトのPR(ホームページ)



(6) 認知症の人や家族への支援

- ・認知症相談窓口の対応

- 市と包括と関係機関の
コーディネート役
各種事業の実行役
現場レベルの活動や意見を
集約していく役

長岡市の認知症地域支援推進員の役割

～兼任(各地域包括支援センター配置)～

(1)認知症の人や家族への支援を行う関係者との連携

- ・オレンジカフェ(認知症カフェ)への積極的な参加、企画への助言等
- ・地域での認知症に関する取り組みの企画・実施

(2) 認知症についての普及啓発活動

- ・認知症サポーター養成講座の企画・講師役での参加、圏域内でのキャラバン・メイト間の連携支援等

(3)早期発見・対応の取り組み

- ・認知症初期集中支援事業に関することを各包括内で周知、相談ケースの選定の際の地区担当者への助言
- ・認知症安心ガイドブックの普及啓発と相談対応での活用

(4)その他

- ・市が行う推進員同士の情報交換会への参加

専任の活動紹介

推進員の活動①

推進員は

認知症サポーター養成講座でのメイトの調整役

長岡市では

メイト有志が、キャラバン・メイト コアチームを

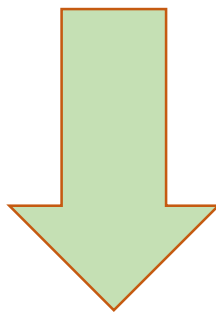
結成し、活動しています。

推進員活動を通して見えてきたもの

【地域は・・・】

家族や行政が病院に連れて行くとか、対応してほしい。

⇒認知症の人が地域で暮らし続けることについて、「認知症の人の支援」を地域全体の課題としてとらえるというよりも、家族や市だけで解決すべき問題としてとらえていることが多い



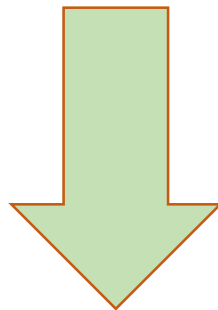
地域の理解が少ないな・・・

認知症の方が住みやすい地域を多くしていきたいな・・・

推進員活動を通して見えてきたもの

【関係者は…】

自分たち個人個人で活動する。⇒関係者間の連携がとれていない



まずは、認知症の理解から始めよう！！
サポーター養成に力を入れていこう！！
それに、キャラバン・メイト同士も力を合わせて取り組んでみたらいいのではないかな。

キャラバン・メイト～個→総合へ～

多くの介護事業所が、それぞれの所属機関の職員やご家族を対象に、サポーター養成講座が行われていた



メイトは皆、認知症の病気の理解をもっと市民に浸透させ、長岡市が住みやすい場になって欲しいと強く願い、各フィールドで活動していた



課題は

☆個人で活動するには限界もある

☆本業がある傍らで職場の了解(理解)を得るにはそれなりの努力と力が必要！



ある福祉のイベントで「認知症サポーター養成講座」をすることに・・・



意欲的な人集まれ！講座を盛り上げよう！！

と呼びかけて、集まったメイトで講座を開催

キャラバン・メイト～コアチーム誕生～

皆で実施した講座が終了した時

「この一回だけで終わってしまうの？」

「もったいない。」

「この集まりを続けたらどうだ！！」



そしてついに・・・

- ・ 熱い思いで、2014年春に

キャラバンメイトコアチームを結成！

- ・ 個々人で活動していたメイトと法人の垣根を越えた交流、
講座の組み立て方などの情報共有を実施 ⇒意見交換会の開催
- ・ 飲み会を行い運営側も息抜きしながら息の長い活動を開催

良い活動の為に推進員として心掛けていること

とにかく顔の見える関係づくりが大切！

会ったこともない、顔のわからない人から電話やメールがきて、「認知症サポーター養成講座のメイトをしませんか？」と言われても……？

自分から外に出て、会って話すことを心掛けています。

顔がわかるとみなさんから「いいよ～(^ ^)」
と返答が返ってきます。

推進員の活動②

推進員は

認知症初期集中支援チームと

各地域包括支援センターとのコーディネート役

包括とチーム員との連携が

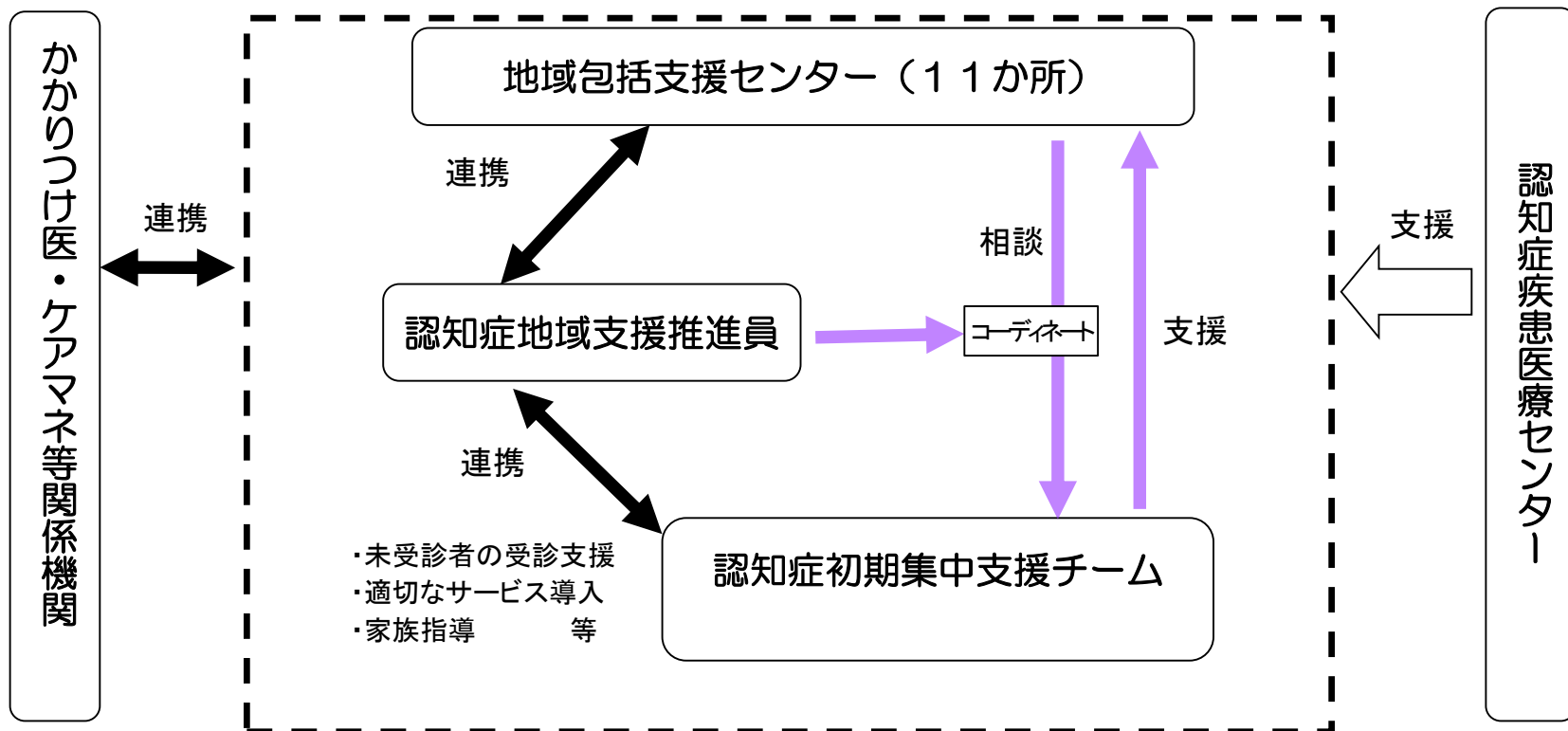
スムーズにいくよう調整しています。

認知症初期集中支援事業～活動開始までの経過～

- H27. 4～
 - ・チーム員と打ち合わせ
 - 毎月の包括定例会にチーム員にも参加してもらい、チーム員と包括が顔あわせる機会を設ける
 - ・包括に対して定例会で、事業の説明
- H27. 5
 - ・市政だよりで市民に対してお知らせ
- H27. 6
 - ・必要な書式(本人・家族への説明書、同意書等)が出来上がる(作成は行政)
- H27. 7
 - ・包括へ介入依頼ケースのヒアリング(推進員)
 - 17ケースが挙げられ、介入の優先順位付け
- H27. 8
 - ・チーム員研修(チーム員2名 & 推進員)
 - 活動開始
- H28. 3
 - ・活動報告を兼ねて、市民向けにフォーラムを実施

認知症初期集中支援事業～チームの体制～

チーム体制図



認知症初期集中支援事業～活動の流れ～

★包括担当者が推進員に介入依頼

→介入の必要性の判断

★介入必要と判断

→包括担当者への聞き取り

→チーム員へ情報提供

→包括担当者への聞き取り ← 情報提供後の追加分

★日程調整

→初回訪問

→チーム員会議(チーム員・行政・推進員・包括・居宅・各事業所等)

→継続支援

★目標達成

→包括、居宅へ引継ぐ

→終了ケースの包括へヒアリング →チーム員へ報告

認知症初期集中支援事業～推進員の役割～

- 包括の地区担当者への情報収集
→チーム員に伝える。
- 介入可否の一時評価
- かかりつけ医への挨拶と
認知症初期集中事業の説明

認知症初期集中支援事業のお知らせ

長岡市では、平成 27 年度、新たに「認知症初期集中支援事業」を開始しました。

これは、国の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の重要施策として市町村が行う事業であり、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を目的としています。

平成 27 年度はモデル的に実施し、効果を検証しながら、今後の事業運営および認知症の初期支援の効果的な手法について、関係機関と連携して構築していきます。

Q. 具体的に、何をするの？

A. 認知症で重要な早期診断・早期対応の実現のために、「認知症初期集中支援チーム」が、適切な医療・介護サービスにつながるように、訪問活動やチーム員会議等を通して支援を行います。

Q. どんな人が対象になるの？

A. 地域包括支援センターが相談対応している方の中で、認知症の疑いがあっても適切な医療・介護サービスにつながらない方、サービスを中断している方など、特に集中的な支援が必要な方が対象です。

Q. 認知症初期集中支援チームはどんな人たち？

A. 認知症の専門医、看護師、介護支援専門員や社会福祉士といった、医療・介護の専門職がチームを組み、様々な視点から、より良い支援を共に考えます。

また、地域包括支援センター、かかりつけ医、担当ケアマネジャーといった関係機関とも連携を図ることで、さらに良い支援が行えるように活動します。



対象者ご本人・ご家族にお願いしたいこと

より良い支援を行わせていただくために、支援チームが、主治医（かかりつけ医）、地域包括支援センター、介護支援専門員（ケアマネジャー）および介護サービス提供事業者等と、対象者様の医療や介護、支援チームで得た情報について共有させていただく場合がありますが、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ

長岡市 長寿はつらつ課

電話：39-2268 FAX：39-2603

認知症初期集中支援事業のお知らせ

長岡市では、平成 27 年度より、「認知症初期集中支援事業」を開始しました。

これは、国の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の重要施策として市町村が行う事業であり、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を目的としています。

Q. 具体的に、何をするの？

A. 認知症で重要な早期診断・早期対応の実現のために、対象者が適切な医療・介護サービスにつながるように、「認知症初期集中支援チーム」が、訪問活動やチーム員会議等を通して支援を行います。

Q. どんな人が対象になるの？

A. 地域包括支援センターが相談対応している方の中で、認知症の疑いがあっても適切な医療・介護サービスにつながらない方、サービスを中断している方など、特に集中的な支援が必要な方が対象です。

Q. 認知症初期集中支援チームはどんな人たち？

A. 認知症の専門医、看護師、介護支援専門員や社会福祉士といった、医療・介護の専門職がチームを組み、様々な視点から、より良い支援を共に考えます。

また、地域包括支援センター、かかりつけ医、担当ケアマネジャーといった関係機関とも連携を図ることで、さらに良い支援が行えるように活動します。



関係機関の皆様をお願いしたいこと

対象者の支援を行うにあたり、関係機関の皆様との連携、対象者に関する医療や介護のサービス状況、生活状況等の情報共有が欠かせません。

皆様の関わっておられる患者様、サービス利用者様が対象となった場合には、チーム員から御連絡をさせていただく場合がございますので、その際は、活動への御理解と情報提供等への御協力をいただきますよう、お願いします。

お問い合わせ

長岡市 長寿はつらつ課 電話：39-2268

認知症初期集中支援事業～ヒアリングにて～

★担当包括職員の意見

- 支援チームが介入したことで、自分だけで動くよりもずっと早く受診・診断につながったと思う。
- 介入により、自分も意識的に訪問を行ったり、様子を気にしたり不足していた視点にも気づき視野が広がった。
- 経過や役割が体験しないと分からなかった。

★チーム員の意見

- 包括の担当職員と一緒に動いてくれて、自分達だけで動くよりもスムーズに入っていった。
- チームと包括の役割分担で悩んだ。

良い活動の為に推進員として心掛けていること

包括からチーム員に関わってもらいたいこと、
チーム員から包括にしてもらいたいこと、
お互いに視点が違うので、事業の目的に沿うように
「本人にとってどのようなことが良いのか」という
同じ目標に向かって、包括とチーム員とのズレを
うまく調整する役割で動くように
心掛けています。



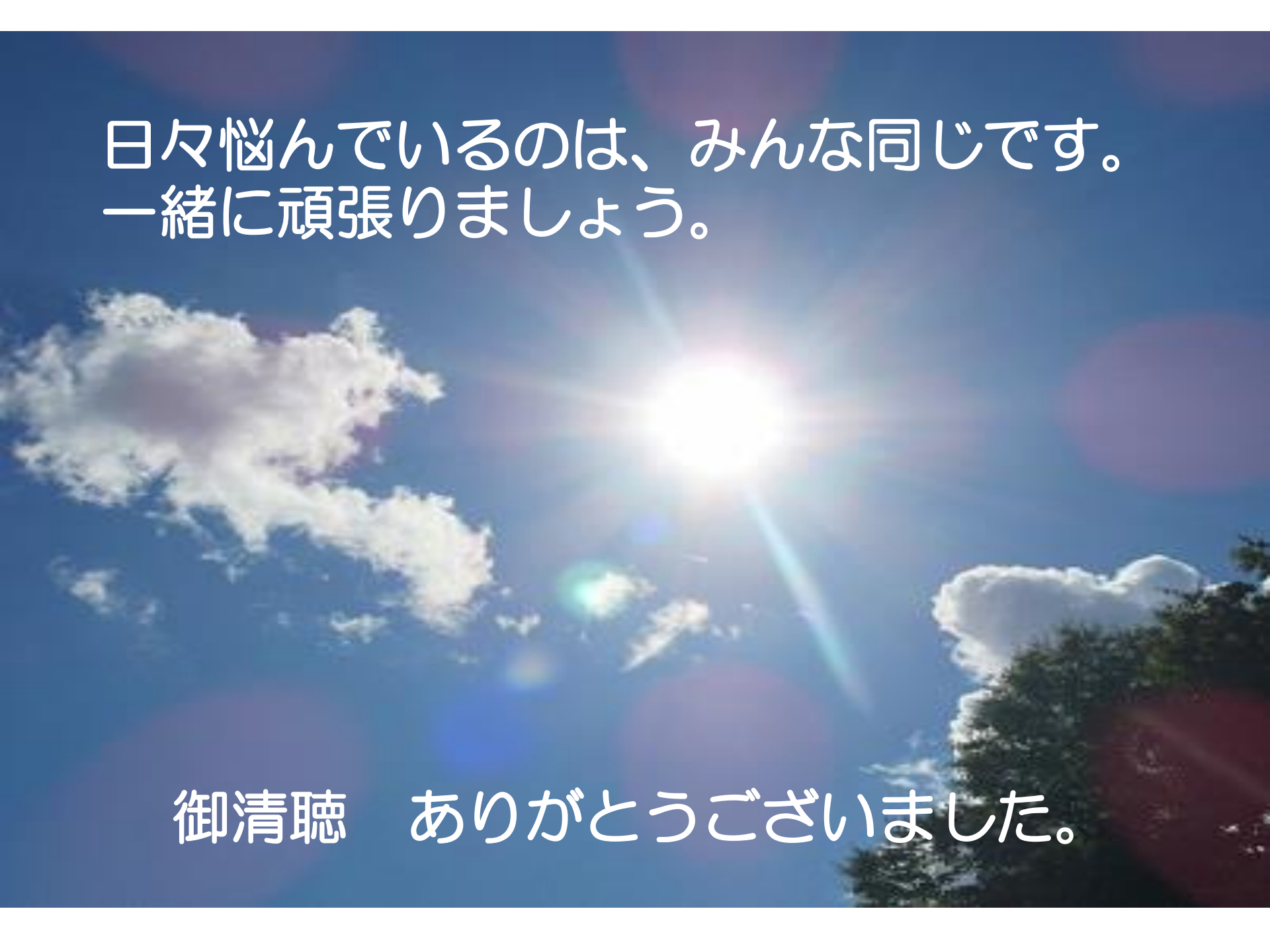
推進員としての課題、 そして今後取り組んでいくこと

【課題】

- ・「認知症への理解」の地域での浸透がまだまだ。
そして繋がってない関係者も大勢。
- ・推進員って何している人？と思っている地域住民も沢山。

【今後もしていくこと】

- ・積極的に外に出て、普及啓発！
- ・行政の担当者の方々と連携して、一緒に考えてもらいながら活動していく。
- ・関係者同士がスムーズに仕事をしていけるように、「調整役」をしっかりと、一つ一つの活動を丁寧にしていく。



日々悩んでいるのは、みんな同じです。
一緒に頑張りましょう。

御清聴 ありがとうございました。